ルールを正しく守って、日本ラグビー再興の第一歩

本当に楽しい、ラグビー精神の生きたフェアーな試合を見ることが出来た。ルールが正しく守られていました。しっかりオフサイドラインまで戻り、攻撃で倒されたらすぐボールを離し、危険なプレーはしないなど、それだけのことです。東福岡対啓光の試合で、東福岡がペナルティが1つだけで60分戦いました。しかも、絶対勝ちたい全国高等学校大会決勝戦でのことです。

大学日本一を決める試合はまさに激闘そのものでした。全国の観戦者は力闘に感動したでしょうが、ペナルティの数が早稲田24、関東学院21の計45という寂しい内容で、新聞にも「躍動感のない試合」と評された試合で優勝が決まりました。協会がかかげる「競技人口増加、競技水準向上、観客数増加」という目標に直接繋がらないものであったことは残念です。ラグビープレーヤーや愛好者たちはそれなりに感動しただろうがラグビーにちょっと興味を持っている人達や、一度見てみようとした人達には、勝敗を争えるまでに至らず、興味が倍増しないでしょう。

ペナルティの少ないラグビーはもっともっと面白いスポーツなのです。ルールを正しく守ることは、ラグビーを楽しむ第一条件であり、試合に勝つ合理的有効方法であるのです。攻撃面で反則をするということは、相手にペナルティキックを与え（時には相手が立ち直り反撃するチャンスを与える）、自らも攻撃を中断したり、攻撃の時間を減少したりするものです。防御面でも後退を余儀なくし、故意に反則やその繰り返しは認定トライに繋がるものです。片方の反則が20位が普通で、反則の多い方のチームが勝つことに違和感を持たないのが現状です。それがラグビーなんだと考えるのは間違いです。

2003.01.14
西川　義行